

| | | | |
|--------------|------|---------|------|
| 床材施工の手順 | P229 | 2.工法の確認 | P234 |
| 1.下地・使用環境の確認 | P230 | ①製品別選定表 | P235 |
| ①使用環境 | P230 | ②下地別選定表 | P241 |
| ②下地 | P231 | 3.接着剤 | P245 |

床材施工の手順

 下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

下地・使用環境の確認

| 下地の確認 | | 使用環境の確認 |
|--------------------------|-------------------|------------|
| ●下地が十分に乾燥※して強度があること | ●既存下地の種類 | ●水の使用頻度 |
| ●不陸・ざら目・突起物がなく表面が平滑であること | ●適切な水勾配が設けられていること | ●温度変化 |
| ●粉ふき・ひび割れなどがないこと | ●防水性の有無 | ●結露の有無 |
| ●油・塗料・ワックス・塵埃などがないこと | | ●重量物の設置、運搬 |

※下地の厚みや環境によって乾燥時間は異なります。

工法の確認(接着剤、副資材の選定)

| | | | |
|-------|-----------|---------|--------|
| ●一般工法 | ●特殊耐水工法 | ●継目止水工法 | ●床暖房工法 |
| ●耐水工法 | ●プールサイド工法 | ●テープ工法 | |

施工前の準備

| 下地の調整および補修 | | 材料の手配・搬入 |
|------------|-----------------|--|
| ●乾燥度の確認※ | ●油・塗料・ワックスなどの除去 | ●工程表・割付図作成 |
| ●強度の確認 | ●古い接着剤の除去 | ●床材・接着剤・副資材などの手配・搬入 |
| ●段差・凹凸の補修 | ●ドア開閉の干渉確認 | 保管 |
| | | ① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと |

※下地の厚みや環境によって乾燥時間は異なります。

施工

① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

| | | | |
|-----------|-------------|-------------|----------|
| 1 作業環境の確保 | 5 接着剤の塗布 | 8 壁際の裁断 | 11 継目処理 |
| 2 清掃 | 6 オープンタイム | 9 圧着 | 12 端部処理 |
| 3 割り付け | 7 張り付け・エア抜き | 10 養生(1~2日) | 13 清掃・点検 |
| 4 仮敷き | | | |

養生(2~3日)

① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

| | | |
|----------|-----------|--------|
| ●保護シート敷き | ●重量物の運搬禁止 | ●通行の禁止 |
|----------|-----------|--------|

初期メンテナンス

接着剤などが完全に硬化した後ホコリ除去→汚れ除去(中性洗剤*)→水拭き→乾拭き

※接着剤などが硬化している場合はカッターナイフなどで削り取る。

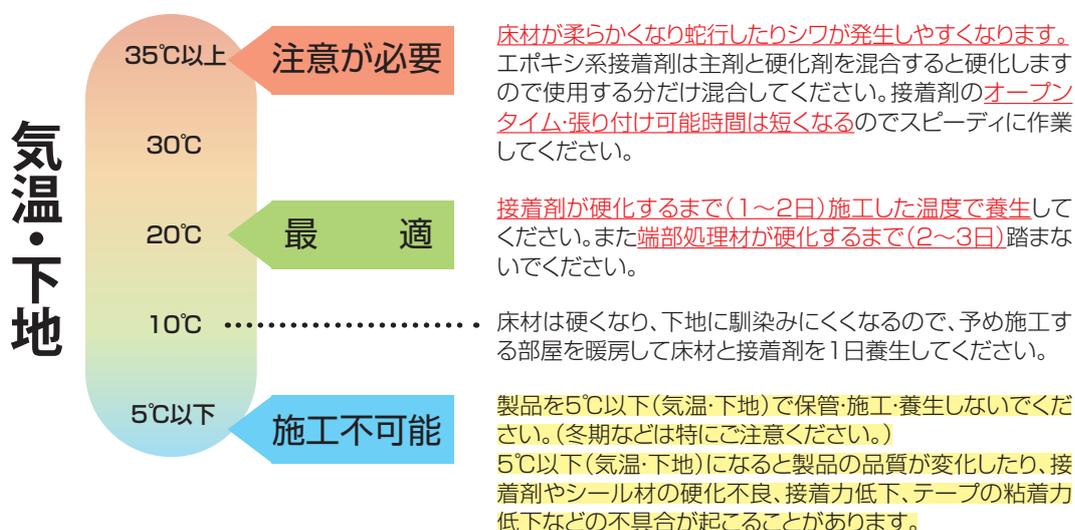
引き渡し

注) 実際の現場においては、施工における様々な状況、条件が想定されます。各現場に合わせた適切な対応をおこなってください。

1. 下地・使用環境の確認

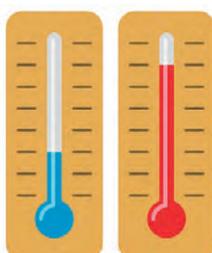
床材の仕上がりの良否は、下地と作業環境によって左右されるといっても過言ではありません。床材は温度の変化、乾湿の繰り返しなどによって、寸法の変化、いわゆる呼吸をしています。このような床材の動きを接着剤で強固に下地と接着するためには、**床材の動きに耐え、接着剤の性能を十分に発揮させ得る下地**が必要です。またプラスチック系床材は低温になれば硬く、高温になれば柔らかくなる性質があり、**接着剤や端部処理剤なども低温になれば硬化が遅くなる**性質があります。このように床材が下地に馴染みやすく、**接着力を早く発揮させる環境(温度)作り**も必要です。床材の施工では多様な下地の状況に最も適した対処方法と、施工環境についての知識が不可欠であります。ここでは、施工する各種の下地が備えていなければならないポイントと対処方法、及び施工環境について説明します。

① 使用環境



5℃以下(気温・下地)にならないこと
急激な**温度変化**がないこと
水濡れ(降雨など)がないこと

5℃
以上
(気温・下地)



試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

② 下地



ディスクグラインダー



スクレッパー

- 下地の突起物をディスクグラインダーやスクレッパーで削り取って平滑にしてください。
- 砂や塵埃などを除去してください。
- ワックス・油分・塗料などは除去してください。
(ワックスは、できるだけ空拭きで除去した後、リムーバーもしくは溶剤を使用してふき取ってください。
油分や塗料は、硬化していなければできるだけ拭き取り、硬化していればできるだけ削り取って、溶剤を用いて除去してください。)
- 踏み面と蹴込み面との角度が80度以下の階段には施工できません。(タキステップ)
- 凹凸の大きい骨材仕上げやゴムチップ仕上げなどの場合は、撤去してください。
- 平鋼板下地の場合、十分な防錆処理(上塗り塗装を含む)が施されていること。
合成樹脂調合ペイント(通称SOP)など、密着力の弱い塗料や耐溶剤性の悪い塗料は、材料が剥離したり接着剤などの溶剤で塗料が溶けたりすることがありますので、使用しないでください。

| | | |
|-------|--|--|
| セメント系 | モルタル下地 モノリシックコンクリート下地 プレキャストコンクリート下地 シンダーコンクリート下地 セルフレベリング下地 | <ul style="list-style-type: none"> ● 不陸・ざら目・突起物がなく表面が平滑であること。 ● 粉ふき・ひび割れなどが無いこと。 ● 十分な強度があること。 ● 十分に乾燥していること。 (厚みや環境によって乾燥時間は異なります。) ● 油・塗料・ワックス・塵埃などが無いこと。 |
|-------|--|--|

土間コンクリート床下地

土間に直接コンクリートを打設した下地であるため、**土間から湿気**が上昇し、床材を張り付けた後に、床材裏面に湿気が留まって床材にフクレが生じたり、継目から剥れたり、目地からコンクリートの成分がにじみ出てくる場合があります。土間からの湿気上昇を防止するために、防湿シートを床下に付設したり、防水層を設けることがあります。ただし、防水・防湿層を設けたコンクリート下地は**表面からのみの乾燥であるため、通常の2倍～3倍の乾燥期間が必要**です。また、山際・低地では、施工する時は乾燥していても梅雨期に湿気が上昇する場合があります。床材を施工する場合は、**下地の乾燥と建物の立地状況を必ずチェック**し、耐湿材料の選定などを検討してください。

デッキプレートなどの型枠上のコンクリート・モルタル床下地

デッキプレートに直接コンクリートを打設した下地であるため、コンクリート・モルタルの**乾燥は表面のみであり、通常の2倍～3倍の乾燥期間が必要**です。湿気のチェックを行い、下地を十分に乾燥させてから施工してください。

シンダーコンクリート(押えコンクリート)下地

防水層の上に敷設される押えコンクリート(軽量コンクリート、気泡コンクリート)はいわば防水層でできた水槽の中に置かれた状態にあるため、**大量の水を含んでいます**。完全に乾燥させるのが難しく、そのまま床材を張り込むと、床材で蓋をした状態となり、残った水分の蒸気等が逃げ場を失いやがて床材を持ち上げ**膨れを起こす可能性があります**。押えコンクリートは直射日光を浴びて**夏場はかなり膨張**するため、壁側の防水層の立ち上がり部を破損させないように、伸縮目地を設けた構造となっています。**目地の上に床材を張り込むと目地に沿って浮きや亀裂が生じます**。目地を跨がずに施工する事で、上記現象は低減されますが、使用環境や状況によってはその限りではありません。

コンクリート伸縮目地・クラックのある床下地

セメント系下地のコンクリート・モルタルは**長期間にわたって乾燥収縮**をするため広い面積では**ひび割れが発生**します。そのひび割れを定期的に発生させるために**誘発目地を設けたり伸縮目地が設けてあります**。これらの目地・ひび割れの隙間は温度の変化によっても変化しており、また**下地の湿気もひび割れを伝って多く上昇**しています。これらの目地・ひび割れの上に床材を張り付けると**目地・ひび割れに沿って浮きや亀裂**を生じることがあります。床材を施工する場合は目地・ひび割れは樹脂の注入、樹脂モルタルで補修し、平滑に仕上げてください。**伸縮目地など下地の動きが大きい場合は目地手前**で床材を仕上げ、**目地を露出**させてください。

| | | |
|---------|---|--|
| プラスチック系 | ウレタン下地 エポキシ樹脂下地 不飽和ポリエステル樹脂 レジンテラゾータイル ビニル床タイル ビニル床シート | <ul style="list-style-type: none"> ● 既設床材を剥がしてから床材の張り付けが基本です。 ● 既設床材が下地に十分接着していること。 ● 不陸・突起物・浮き・欠損がなく表面が平滑であること。 ● ワックス・汚れを除去すること。 ● 樹脂の成分によって接着剤の強度が十分に発揮されない場合がありますので、事前に接着テストを行い確認してください。接着力が弱い場合は、サンダー掛けを行い表面を荒らす必要があります。 |
|---------|---|--|

ビニル床タイル下地

ビニル床タイル下地にビニル床材を重ね張りした場合、床タイルの目地から飛散していた湿気が、重ね張りしたビニル床材によって飛散できなくなり、**湿気が床材の裏に留まって床材が膨れ**ることがあります。重ね張りの場合は下地からの湿気を十分確認してください。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

| | | |
|------------|--------------------------|---|
| 木質系 | 耐水合板 フローリング アビトン合板 | <ul style="list-style-type: none"> ● 段差がなく平滑であること。 ● フックス・油脂分を除去すること。 ● 目地すき・たわみがないこと。 |
|------------|--------------------------|---|

木質下地にビニル系床材を張り付けると、床下からの湿気を通さなくなるため、**下地の腐食を早めたり、湿気を吸収して下地が突き上げたり**します。床下の通気を十分確保してください。また床下地の裏面、根太に防腐剤、防虫剤を多く塗布してあると、**クギ山、目地から防腐剤がしみ出し床材を変色**させる場合があります。防腐剤のしみ出しを防いでから施工してください。

| | | |
|---------------|----------------------|--|
| 金属系その他 | 鉄板 ステンレス板 アルミ板 | <ul style="list-style-type: none"> ● サビがないこと。 ● 油類の汚れがないこと。 ● 溶接・切断部の凹凸がなく、平滑であること。 ● 十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)がなされていること。 ● 塗料の種類によっては、接着剤中の溶剤により塗料が膨潤する場合があります。 |
|---------------|----------------------|--|

金属下地に床材を張り付けると、床材の目地・端部周辺から水が入り、**下地が腐食して床材にフクレ・変色**を起こす場合があります。**下地に防錆処理**を行ってください。また下地表面の塗料(ペンキ等)が接着剤に含まれる溶剤で溶け剥れることがあります。十分に確認してから施工を行ってください。

床暖房下地

施工前後にシートの温度が急激に変化しないよう、下記のどちらかの方法で施工してください。

- ① 床暖房を稼働して施工する場合(実際の使用温度下での施工)
1週間前から床暖房を稼働させ、施工を行ってください。施工後は、床暖房を稼働させたまま養生を行ってください。(最低1週間)
 - ② 床暖房を停止して施工する場合
施工前日に床暖房を停止し、床面が室温と同じになった状態で施工を行ってください。施工後も床暖房は停止した状態で養生してください。(最低1週間)
- 使用する床材は施工する予定の室内で保管し、室温に馴染ませてから施工してください。

接着剤の種類によっては暖房床からの熱によって軟らかくなり所定の接着強度が出ないことがあります。また、コンクリート内の水分の湧出によって、不具合が発生することがありますので、必ず専用副資材を使用してください。

コンクリート内埋設タイプ

断熱材を敷き詰めたコンクリートスラブの上に1/2~1インチ程度の発熱体(温水パイプ、発熱線等)を一定間隔にセットして普通コンクリートで埋設したもの。

- 下地の乾燥は充分であるか。
- 暖房床の空運転*を施工7日以上前から実施し、下地にとじ込められていた水分を放出させること。
- 下地の養生と暖房床の空運転を同一視しないこと。
- 下地が未養生のまま空運転するとコンクリートにクラックが生じることがある。
- 下地は不陸や突起、凹凸がなく平滑であること。
- 所定の接着強度をうける下地強度をそなえているか。
- 接着強度を妨げるような塵埃、モルタルかす、油等が付着していないか。
- クラックが発生した時には、エポキシ系注入剤による補修を行うか、またはクラックの部分にV字型に刻んだ上で樹脂モルタルで補修します。

※ 暖房床空運転の目的

床施工後暖房を始めるとコンクリート内に閉じ込められていた水分が急激に湧出してトラブルをおこす事があるため、床施工の前に運転をして下地の安定をはかるのを目的としている。

パネルヒータータイプ

断熱材を裏打ち発熱体を組み込んで塩ビ鋼板やアルミ板で被覆を行いパネルとし、そのパネルを敷き詰めパネル相互を結線し、制御するシステムである。

- 床面のたわみ、単振等による下地の障害はないか。
- 目違い、接合部における突起、段差がなく平滑であるか。
- 接着を妨げるような塵埃、油等が付着していないか。
- 暖房床の空運転を施工前7日以上使用状態の温度で行ないパネル各自の安定がはかられているか。

接着剤の種類によっては暖房床からの熱によって軟らかくなり所定の接着強度が出ないことがあります。また、コンクリート内の水分の湧出によって、不具合が発生することがありますので、必ず専用副資材を使用してください。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

下地水分率チェック方法

下地の水分が十分に乾燥するまで養生が必要です。必要に応じて下地の湿気をチェックしてください。

<下地湿気判定方法の例>



高周波式水分計(株式会社ケツト科学研究所 HI-520-2)を用いた測定

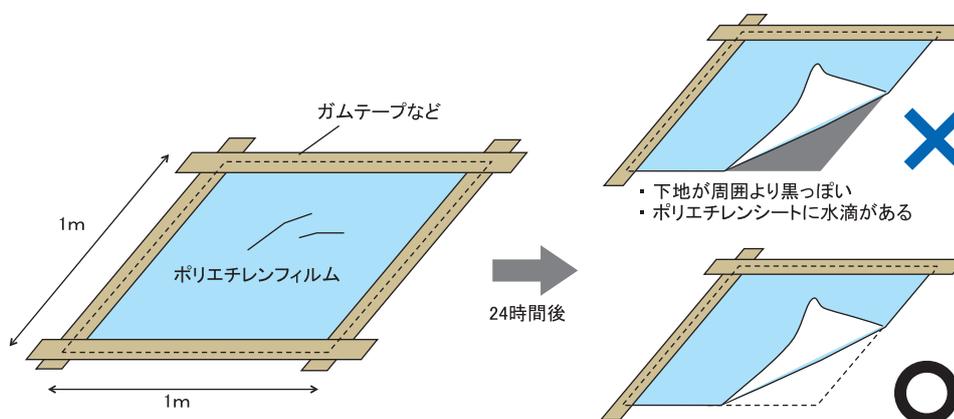
平坦で直射日光や通風、及び下地表面に付着物のない場所を選んで測定する。

- ① 選択ダイヤルを「Dモード」に合わせる。
- ② 厚さ補正ダイヤルを「40」に合わせる。
- ③ 湿度補正ダイヤルを「AUTO」に合わせる。



ポリエチレンフィルム法

| 試験方法 | 判定基準 |
|--|-----------------------|
| 1m×1mのポリエチレンフィルムの周囲をガムテープで密封し、24時間放置後の様子を観察する。 | 水滴が付いたり、黒く変色したりしないこと。 |



| 高周波式水分計 読み値 | ポリエチレンフィルム法 | 工法の目安 |
|----------------|----------------------------|------------------|
| 440未満 | 変色なし | 一般工法 |
| 440以上 620未満 | 輪郭がはっきりしていないが 黒っぽくなっている | 耐水工法 特殊耐水工法 |
| 620以上又はFFF* | 変色や水滴がある | プールサイド工法 施工不可 |

*FFFは測定不能の意味

*上記確認方法は参考であり、各現場に適切な方法によりご確認を行ってください。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

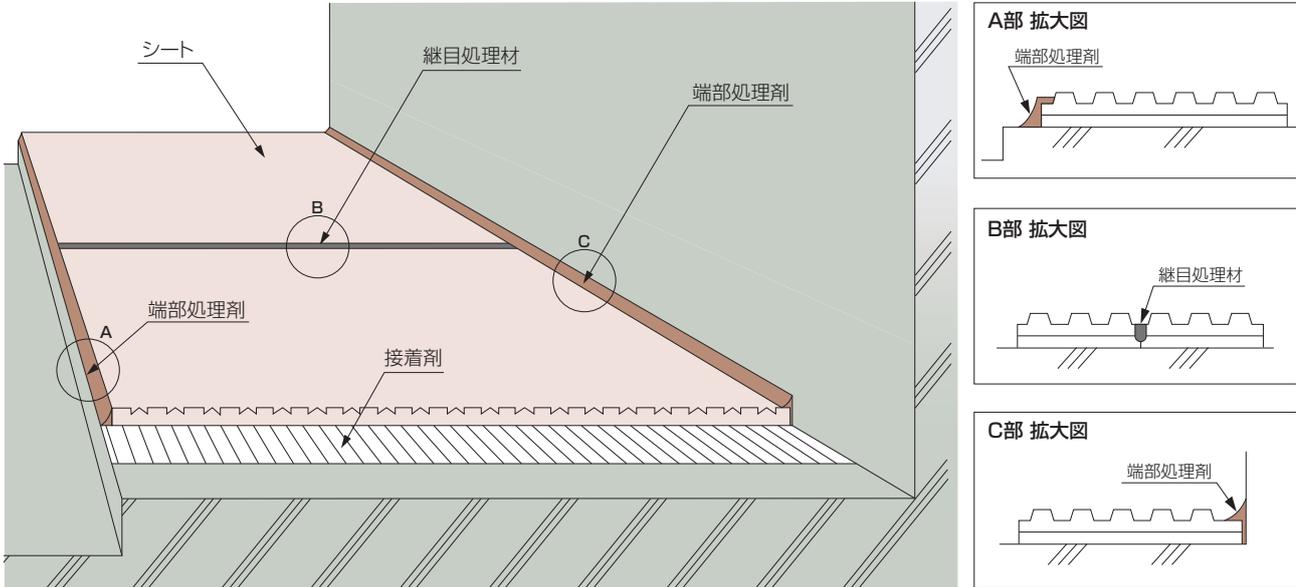
| | | |
|---------------|----------------------------|--|
| 石・陶磁器系 | 大理石下地 花こう岩下地 磁器タイル下地 | <ul style="list-style-type: none"> ●不陸・突起物なく表面が平滑であること。 ●十分な強度があること。 ●汚れ、塵埃がないこと。 ●樹脂モルタルで目地詰めしてさらに上塗りが必要。 |
|---------------|----------------------------|--|

| | | |
|----------------|-------------------------------|--|
| アスファルト系 | アスファルト系防水下地 アスファルトコンクリート下地 | <ul style="list-style-type: none"> ●直接接着剤で床材を張り付けるとアスファルト成分が床材に移行して床材を黒く変色させ、更に膨れも生じますのでアスファルト下地材を撤去した後、新しくコンクリート下地を打設するか、もしくはアスファルト下地を撤去後、下地補修材を5mm以上の厚みで上塗りする必要があります。 ●厚塗り、塗膜強度については下地補修材のメーカーにお問い合わせください。 |
|----------------|-------------------------------|--|

2.工法の確認

タキロンシーアイの床材製品は、過酷な屋外での使用にも耐えるすぐれた耐久性を持っています。タキロンシーアイでは、この特長を最大限に生かす優れた専用接着剤、副資材、工法を開発。独自の工法を確立し、数多くの実績をもっています。

標準納まり図



※標準納まり図は一例であり、実際の納まりとは異なる場合があります。

| 工法 | 用途 |
|----------|---|
| 一般工法 | 屋内など水を使用しない場所など |
| 耐水工法 | 直接雨がかりのない場所・湿気の恐れのある場所など |
| 特殊耐水工法 | 雨がかりがある場所・水を大量に使用する場所など |
| プールサイド工法 | プールサイドなど特に大量に水を使用する場所など |
| 継目止水工法 | プールサイドなど特に大量に水を使用する場所など (屋内プールサイド) |
| テープ工法 | 縞鋼板下地、押出成形セメント板下地など |
| 床暖房工法 | 床暖房下地にタキストロンを施工する場合 (コンクリート内埋設タイプ) (パネルヒータータイプ) |
| 通気緩衝工法 | モルタル充填型鉄骨階段・踊り場 |

継目処理

溶接工法 床材の継目部は隙間なく仕上げ、U字型に溝を切り、タキストロン床溶接棒を熱風溶接機を用い、溶融しながら断面を熱風溶接します。

端部処理

シール工法 排水溝、壁際などの端部からの水の浸入を防止し、床材のめくれ、剥がれを防ぐために、耐水性にすぐれたタキシール#600・エポシールなどで端部処理を行います。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

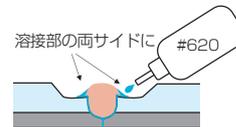
接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

製品別選定表 (1)

- 記載内容以外の工法での施工トラブルは原因説明ができませんのでご注意ください。
- 継目処理・端部処理にシールを使用する場合は養生(2~3日)させ完全に硬化するまで触ったり踏まれないようにしてください。
(硬化後の仕上がり面は多少やせが生じます)
- 下地の種類によっては本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者にお問い合わせください。(事前の接着テストをおすすめいたします。)
- 下地が塗膜防水材や塗り床などの場合は、種類によって副資材の選定が異なります。営業担当者にお問い合わせください。
- 鋼板製の下地については十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を施してください。種類によっては接着しないことがありますのでお問い合わせください。
- ステップに同梱しているタキボンド#650は凹凸の少ない標準的な下地を想定した数量を付属しています。不足する場合は別売品を追加購入してください。
- 製品を5℃以下(気温・下地)で保管・施工・養生しないでください。(冬期などは特にご注意ください。)
- 5℃以下(気温・下地)になると製品の品質が変化したり、接着剤やシール材の硬化不良、接着力低下、テープの粘着力低下などの不具合が起こることがあります。
- ナイスレシートの使用可否については、ナイスレシート施工手順をご覧ください。
- クリアインレイド製品(AHT・AHL・WB)を、過剰な湿気を含んだ下地、かつ直射日光が当たる部位へ施工する際の継目処理は、**床溶接棒とタキボンド#620(シーム液)を併用してください。**
フクレ・剥がれ、また、エフロレッセンスの発生等による変色等の可能性があるため、余盛カット前に溶接部の両サイドにタキボンド#620(シーム液)を塗布してください。



マンション用

タキストロン

(HK・ZA・NA・RA・FH・QA・BA・SA・PRENTO・MR・AHT・AHL・WB・LB・プラスケアXG)

スロープ専用シートSL/廊下・踊り場用シート/ドレーンレール/スリップレール/点字タイル

| 工法 | 用途 | 下地 | | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 |
|--------|--|-----|----------------|-----------------------|----------------------------------|--------------------------|
| 耐水工法 | 雨がかりが少ない場所 (屋根のある廊下・バルコニー) | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 |
| | | 吸水 | モルタル 端部塗膜防水 | | | |
| 特殊耐水工法 | 完全屋外 (屋根のない廊下・バルコニー ルーフバルコニー・屋上など) | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 |
| | | 吸水 | モルタル | タキボンド#601 | 床溶接棒 タキシール#600 + タキボンド#625 | タキシール#600 + タキボンド#625 |
| | | | 端部塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 |

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- 廊下や踊り場などにタキストロンプラスケアを使用する場合、階段の最上段はプラスケア専用のコネクタステップをご使用ください。
- 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。
- 水の勾配は1/100以下で平滑に仕上げてください。

タキストロン(HK・ZA・NA・RA・FH・QA・BA・SA・PRENTO・MR・AHT・AHL・WB・LB) 廊下・踊り場用シート + ナイスレシート

| 工法 | 用途 | 下地 | | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 |
|--------|--|-----|----------------|-----------------------|----------------------------------|--------------------------|
| 耐水工法 | 雨がかりが少ない場所 (屋根のある廊下・バルコニー) | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 |
| | | 吸水 | モルタル 端部塗膜防水 | | | |
| 特殊耐水工法 | 完全屋外 (屋根のない廊下・バルコニー ルーフバルコニー・屋上など) | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 |
| | | 吸水 | モルタル | タキボンド#601 | 床溶接棒 タキシール#600 + タキボンド#625 | タキシール#600 + タキボンド#625 |
| | | | 端部塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 |

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。
- 下記とナイスレシートとの二重張りはありません。
プラスケアXG・SL・ドレーンレール(全て)・面台ガードC・NSマット・T-EVマット・ベンチレシート

マンション用

面台ガードC

| 工法 | 用途 | 下地 | シートとの継目処理材 | 面台垂直部の端部処理材 |
|-------|-------------------------|---|-------------------------|-------------------------|
| テープ工法 | 直接雨がかりのない バルコニー・ベランダ | (既設の場合) ^{※1} ウレタン系塗膜防水材 + タキボンド#625 | タキシール#600 ^{※2} | タキシール#600 ^{※2} |

- ※1 防水材が新設の場合はタキボンド#625(別売品)不要
- ※2 タキシール#600の品番はシートに合わせてください。

製品別選定表 (2)

マンション用

タキステップ蹴込み一体タイプ(8W・6W・5W)

| 工法 | 用途 | 下地 | 接着剤 | シートとの継目処理材 | 端部処理材及びステップ同士の継目 | 段鼻隙間充填用接着剤 | プライマー |
|------|------------|--------------|-----------|-------------------|------------------|------------|-----------|
| 耐水工法 | 雨がかりが少ない場所 | 吸水性下地・非吸水性下地 | タキボンド#607 | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 | タキボンド#650 | タキボンド#625 |

- 廊下や踊り場などにタキストロンプラスケアを使用する場合、階段の最上段はプラスケア専用のコネクステップをご使用ください。
- 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。
- 鋼板下地に施工する場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)を購入してください。(#650を段鼻に接着させるため)
- タキボンド#601・701は使用出来ません。(平場専用で巻き上げ施工が出来ないため)
- ナイスレシートとの二重張りは出来ません。

マンション用

タキステップ 踏み面タイプ(MW・3W)

タキステップ 踏み面タイプ(MW・3W) + ナイスレシート

| 工法 | 用途 | 下地 | 接着剤 | シートとの継目処理材 | 端部処理材及びステップ同士の継目 | 段鼻隙間充填用接着剤 | プライマー |
|------|------------|--------------|-------------------|-------------------|------------------|------------|-----------|
| 耐水工法 | 雨がかりが少ない場所 | 吸水性下地・非吸水性下地 | タキボンド#607・701・601 | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 | タキボンド#650 | タキボンド#625 |

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- 廊下や踊り場などにタキストロンプラスケアを使用する場合、階段の最上段はプラスケア専用のコネクステップをご使用ください。
- 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。
- 鋼板下地に施工する場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)を購入してください。(#650を段鼻に接着させるため)
- モルタル下地で蹴込み部分用シートを施工しない場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)をご使用ください。(テープを接着させるため)

マンション用

蹴込み部分用シートCW(踏み面タイプ用)

| 工法 | 用途 | 下地 | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 | プライマー |
|------|------------|--------------|-------------------|-----------|-----------|-----------|
| 耐水工法 | 雨がかりが少ない場所 | 吸水性下地・非吸水性下地 | タキボンド#607・701・601 | タキシール#600 | タキシール#600 | タキボンド#625 |

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。
- ナイスレシートとの二重張りは出来ません。

マンション用

タキステップ(8W・6W・5W・MW・3W) または 踊り場シート + ベンチレシート

| 工法 | 用途 | 下地 | 接着剤 | シートとの継目処理材 | 端部処理材及びステップ同士の継目 | 段鼻隙間充填用接着剤 |
|--------|----------|--------------|----------------|-------------------|------------------|------------|
| 通気緩衝工法 | モルタル充填鉄骨 | 吸水性下地・非吸水性下地 | #607・701・601※1 | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 | タキボンド#650 |

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- 全面塗膜防水材の場合は、端部50mm程度を空けて階段と並行方向に50mm程度の幅で防水材にカッターで切込みを入れてください。(モルタル層に達するまで)
- 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625(別売品)で前処理を行ってください。
- ナイスレシートとの二重張りは出来ません。
- ※1 タキボンド#601・701は蹴込み一体タイプ(8W・6W・5W)には使用出来ません。(平場専用で巻き上げ施工が出来ないため)

縞鋼板用

タキステップ 踏み面タイプ(3S)

| 工法 | 下地 | テープ | シートとの継目処理材 | 端部処理材及びステップ同士の継目 | 段鼻隙間充填用接着剤 | プライマー |
|-------|-------|---------------------|------------|------------------|------------|-----------|
| テープ工法 | 縞鋼板下地 | 不要 (両面テープ一体型のため) | タキシール#600 | タキシール#600 | タキボンド#650 | タキボンド#625 |

- プライマー タキボンド#625(別売品)は必ずご使用ください。(テープを接着させるため)
- 蹴込み部分用シートの施工についてはお問い合わせください。
- ナイスレシートとの二重張りは出来ません。

縞鋼板用

廊下・踊り場用シートTW(3S用)

| 工法 | 下地 | テープ | プライマー | ステップとの継目処理材 | シート同士の継目処理材 | 端部処理材 |
|-------|-------|---------------|-----------|-------------|-------------|-----------|
| テープ工法 | 縞鋼板下地 | タキストロンテープ#355 | タキボンド#625 | タキシール#600 | タキシール#600 | タキシール#600 |

- プライマー タキボンド#625(別売品)は必ずご使用ください。(テープを接着させるため)
- 両面テープ一体型製品ではありませんので、タキストロンテープ#355(別売)を購入してください。
- ナイスレシートとの二重張りは出来ません。

マンション用

コネクステップ Cシリーズ

コネクステップ D6・D8(プラスケアXG用)

| 工法 | 用途 | 下地 | 接着剤 | シートとの継目処理材 | 端部処理材及びステップ同士の継目 | 段鼻隙間充填用接着剤 | プライマー |
|----------------|----|----|-----|-------------------|------------------|------------|-----------|
| 各シートの工法を参照ください | | | | 床溶接棒 タキシール#600 | タキシール#600 | タキボンド#650 | タキボンド#625 |

- 鋼板下地に施工する場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)を購入してください。(#650を段鼻に接着させるため)
- モルタル下地で蹴込み部分用シートを施工しない場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)をご使用ください。(テープを接着させるため)
- 廊下や踊り場にタキストロンプラスケアを使用する場合、階段の最上段はプラスケア専用のコネクステップをご使用ください。
- プラスケア専用のコネクステップは、通気緩衝工法には使用出来ません。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・副資材
P.314

副資材品番一覧
P.328

メンテナンス注意
P.333

製品別選定表 (3)

< 共通注意事項 >

- 記載内容以外の工法での施工トラブルは原因説明ができませんのでご注意ください。
- 継目処理・端部処理にシールを使用する場合は養生(2~3日)させ完全に硬化するまで触ったり踏まれないようにしてください。
(硬化後の仕上がり面は多少やせが生じます)
- 下地の種類によっては本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者にお問い合わせください。(事前の接着テストをおすすめいたします。)
- 下地が塗膜防水材や塗り床などの場合は、種類によって副資材の選定が異なります。営業担当者にお問い合わせください。
- 鋼板製の下地については十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を施してください。種類によっては接着しないことがありますのでお問い合わせください。
- ステップと同梱しているタキボンド#650は凹凸の少ない標準的な下地を想定した数量を付属しています。不足する場合は別売品を追加購入してください。
- 製品を5℃以下(気温・下地)で保管・施工・養生しないでください。(冬期などは特にご注意ください。)
- 5℃以下(気温・下地)になると製品の品質が変化したり、接着剤やシール材の硬化不良、接着力低下、テープの粘着力低下などの不具合が起こることがあります。
- ナイスレイシートの使用可否については、ナイスレイシート施工手順をご覧ください。

ブルサイド用

タキストロン ST・MX・MT タキストロン プラスケア MJ

タキストロン ST・MX・MT + ナイスレイシート

| 工法 | 用途 | 下地 | | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 |
|-----------------------|-----------------------------------|-----|--------|-----------------------|------------------------------------|-------|
| | | 非吸水 | 全面塗膜防水 | | | |
| 耐水工法 | 雨がかりが少ない場所 大量に水を使用しない場所 | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 エポシール※2 | エポシール |
| | | 吸水 | モルタル | | | |
| 特殊耐水工法 | 完全屋外 大量に水を使用する場所 | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | | |
| | | 吸水 | モルタル | タキボンド#601 | | |
| ブルサイド工法 | 特に大量に水を使用する ブルサイドなど | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド#601 | | |
| | | 吸水 | モルタル | | | |
| ブルサイド 継目止水工法 ※1 | 特に大量に水を使用する ブルサイドなど (屋内プール) | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド#601 | ジョイントシートS + タキボンド#620 + 床溶接棒 | |
| | | 吸水 | モルタル | | | |

- 水中には施工できません。
- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- 伸縮目地に施工すると伸縮目地でフクレや亀裂が生じることがありますので、目地手前で床材を仕上げて目地を露出させてください。
- プラスケアMJを使用する場合、階段の最上段はプラスケア専用のコネクタステップをご使用ください。
- プラスケアMJは、ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。
- 屋内ブルサイドの場合は継目止水工法を推奨いたします。
- ※1 プラスケアMJは継目止水工法には使用できません。
- ※2 プラスケアMJについてはお問い合わせください。

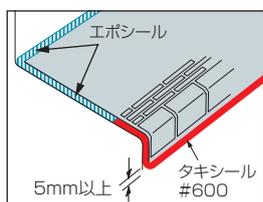
ブルサイド用

タキステップ 3K・3X

3K・3X + ナイスレイシート または ベンチレイシート

| 工法 | 用途 | 下地 | | 接着剤 | シートとの 継目処理材 | 端部処理材及び ステップ同士の継目 | | 段鼻隙間充填用 接着剤 | プライマー |
|-------------|------------------------------|-----|--------|-----------------------|----------------|----------------------|---------------|----------------|---------------|
| | | 非吸水 | 全面塗膜防水 | | | 踏み面 | 段鼻 | | |
| 耐水工法 | 雨がかりが 少ない場所 | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 エポシール | エポシール | タキシール #600 | タキボンド #650 | タキボンド #625 |
| | | 吸水 | モルタル | | | | | | |
| 特殊 耐水工法 | 完全屋外 大量に水を 使用する場所 | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | | | | | |
| | | 吸水 | モルタル | タキボンド#601 | | | | | |
| ブルサイド 工法 | ブルサイドなど 特に大量に水を 使用する場所 | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド#601 | | | | | |
| | | 吸水 | モルタル | | | | | | |

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- 鋼板下地に施工する場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)を購入してください。(#650を段鼻に接着させるため)
- モルタル下地で鉄込み部分用シートを施工しない場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)をご使用ください。(テープを接着させるため)
- モルタル充填型の鉄骨階段には、ベンチレイシートを用いた通気緩衝工法を行ってください。
- ベンチレイシートとナイスレイシートの併用はできません。



試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

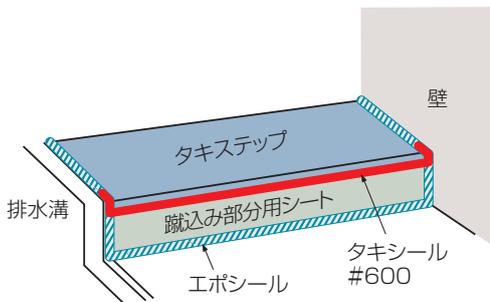
製品別選定表 (4)

プールサイド用

蹴込み部分用シートCW (3K・3X用)

| 工法 | 用途 | 下地 | | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 |
|----------|----------------------------|-----|--------|-----------------------|---------------|-------|
| 耐水工法 | 雨がかりが少ない場所 大量に水を使用しない場所 | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 エポシール | エポシール |
| | | 吸水 | モルタル | | | |
| 特殊耐水工法 | 完全屋外 大量に水を使用する場所 | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | | |
| | | 吸水 | モルタル | タキボンド#601 | | |
| プールサイド工法 | 特に大量に水を使用する プールサイドなど | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド#601 | | |
| | | 吸水 | モルタル | | | |

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。



幼児施設用

タキストロン プラスケアWJ・CJ

| 工法 | 用途 | 下地 | | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 |
|--------|-----------------------------|-----|--------|-----------------------|-------|-------|
| 耐水工法 | 雨がかりが少ない場所 (屋根のあるテラス・廊下) | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 | エポシール |
| | | 吸水 | モルタル | | | |
| 特殊耐水工法 | 完全屋外 (屋根のないテラス・廊下) | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | | |
| | | 吸水 | モルタル | タキボンド#601 | | |

- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- プールサイドには施工できません。
- 階段の段鼻部はコネクトステップ (プラスケア専用)JM・J3シリーズをご使用ください。
- ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。

幼児施設用

蹴込み部分用シートCW(プラスケアWJ・CJ用)

| 工法 | 用途 | 下地 | | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 |
|--------|-----------------------------|-----|--------|-----------------------|-------|-------|
| 耐水工法 | 雨がかりが少ない場所 (屋根のあるテラス・廊下) | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | エポシール | エポシール |
| | | 吸水 | モルタル | | | |
| 特殊耐水工法 | 完全屋外 (屋根のないテラス・廊下) | 非吸水 | 全面塗膜防水 | タキボンド #607・701・601 | | |
| | | 吸水 | モルタル | タキボンド#601 | | |

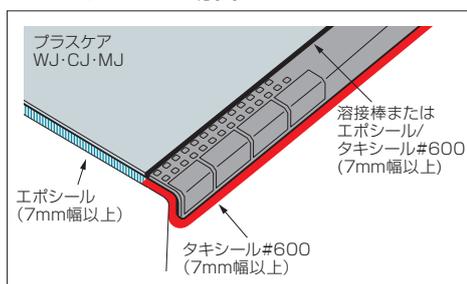
- 塗膜防水材下地にタキボンド#601を使用する場合、トップコートの種類によっては接着しないことがあります。営業担当者にお問い合わせください。
- ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。

コネクトステップJM・J3(プラスケアWJ・CJ・MJ専用)

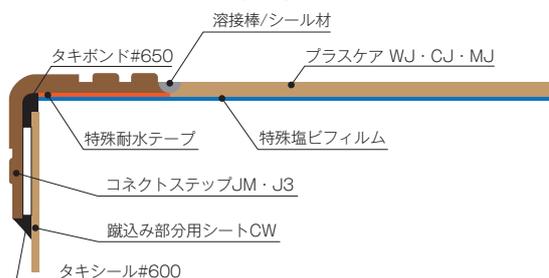
| 工法・用途・下地・接着剤 | シートとの 継目処理材 | 端部処理材 | | ステップ同士の継目 | 段鼻隙間充填用 接着剤 | プライマー |
|----------------|----------------------------|-------|-----------|-----------|----------------|---------------|
| | | シート周囲 | 段鼻部周囲 | | | |
| 各シートの工法を参照ください | 床溶接棒 エポシール タキシール#600 | エポシール | タキシール#600 | タキシール#600 | タキボンド #650 | タキボンド #625 |

- プラスケア専用のコネクトステップは、通気緩衝工法には使用出来ません。
- 鋼板下地に施工する場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)を購入してください。(#650を段鼻に接着させるため)
- モルタル下地で蹴込み部分用シートを施工しない場合は、プライマー タキボンド#625(別売品)をご使用ください。(テープを接着させるため)

<Jシリーズの場合>



<プラスケア + コネクトステップ>



試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

製品別選定表 (5)

< 共通注意事項 >

- 記載内容以外の工法での施工トラブルは原因説明ができませんのでご注意ください。
- 継目処理・端部処理にシールを使用する場合は養生(2~3日)させ完全に硬化するまで触ったり踏まれないようにしてください。
(硬化後の仕上がり面は多少やせが生じます)
- 下地の種類によっては本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者にお問い合わせください。(事前の接着テストをおすすめいたします。)
- 下地が塗膜防水材料や塗り床などの場合は、種類によって副資材の選定が異なります。営業担当者にお問い合わせください。
- 鋼板製の下地については十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を施してください。種類によっては接着しないことがありますのでお問い合わせください。
- ステップと同梱しているタキボンド#650は凹凸の少ない標準的な下地を想定した数量を付属しています。不足する場合は別売品を追加購入してください。
- 製品を5℃以下で保管・施工・養生しないでください。(冬期などは特にご注意ください。)
- 5℃以下(気温・下地)になると製品の品質が変化したり、接着剤やシール材の硬化不良、接着力低下、テープの粘着力低下などの不具合が起こることがあります。
- ナイスレイシートの使用可否については、ナイスレイシート施工手順をご覧ください。

低層アパート用

レッツステップSW

| 工法 | 下地 | テープ | プライマー | 継目処理材 | 端部処理材 |
|-------|-----------------|---------------------|--------------------|-------|-------|
| テープ工法 | 押出成形セメント板 (ECP) | 不要 (両面テープ一体型のため) | レッツステップ 専用プライマー | 不要 | 不要 |

- 段差は7~10R限定
- 一度貼った製品は貼り直さないでください。(粘着強度が低下します)
- ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。

低層アパート用

廊下・踊り場用シート TR

| 工法 | 下地 | テープ | プライマー | 継目処理材 | 端部処理材 |
|-------|--|----------------|--------------------|-------|-------|
| テープ工法 | 押出成形セメント板 (ECP) および エンボス・骨材塗布タイプ (ECP)下地 | タキストロンテープ #107 | レッツステップ 専用プライマー | 不要 | 不要 |

- 両面テープ一体型の製品ではありませんので、タキストロンテープ#107(別売)を購入してください。
- 接地階はテープ工法では施工できませんので、廊下・踊り場用シートMRを接着工法で施工してください。
- 一度貼った製品は貼り直さないでください。(粘着強度が低下します)
- ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。

低層アパート用

テープ付き蹴込みシート CS

| 工法 | 下地 | テープ | プライマー | 継目処理材 | 端部処理材 |
|-------|-----------|---------------------|--------------------|-------|-------|
| テープ工法 | 押出成形セメント板 | 不要 (両面テープ一体型のため) | レッツステップ 専用プライマー | 不要 | 不要 |

- 一度貼った製品は貼り直さないでください。(粘着強度が低下します)
- ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。

低層アパート用

テープ付き側溝外側用シート TG

| 工法 | 下地 | テープ | プライマー | 継目処理材 | 端部処理材 |
|-------|-----------|---------------------|--------------------|-------|-------|
| テープ工法 | 押出成形セメント板 | 不要 (両面テープ一体型のため) | レッツステップ 専用プライマー | 不要 | 不要 |

- 全ての下地幅に対応するわけではありません。(対応下地幅70~78mm)
- 一度貼った製品は貼り直さないでください。(粘着強度が低下します)
- ナイスレイシートとの二重張りは出来ません。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

製品別選定表 (6)

< 共通注意事項 >

- 記載内容以外の工法での施工トラブルは原因説明ができませんのでご注意ください。
- 継目処理・端部処理にシーラーを使用する場合は養生(2~3日)させ完全に硬化するまで触ったり踏まれないようにしてください。
(硬化後の仕上がり面は多少やせが生じます)
- 下地の種類によっては本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者にお問い合わせください。(事前の接着テストをおすすめいたします。)
- 下地が塗膜防水材や塗り床などの場合は、種類によって副資材の選定が異なります。営業担当者にお問い合わせください。
- 鋼板製の下地については十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を施してください。種類によっては接着しないことがありますのでお問い合わせください。
- ステップに同梱しているタキボンド#650は凹凸の少ない標準的な下地を想定した数量を付属しています。不足する場合は別売品を追加購入してください。
- 製品を5℃以下で保管・施工・養生しないでください。(冬期などは特にご注意ください。)
- 5℃以下(気温・下地)になると製品の品質が変化したり、接着剤やシーラー材の硬化不良、接着力低下、テープの粘着力低下などの不具合が起こることがあります。
- ナイスレイシートの使用可否については、ナイスレイシート施工手順をご覧ください。

屋内施設用

タキステップ7F・7Y

| 工法 | 用途 | 下地 | 接着剤 | シートとの 継目処理剤 | 端部処理材 及びステップ同士の継目 | 段鼻隙間 充填用接着剤 | プライマー |
|------|---|---------------------|---------------|----------------|----------------------|----------------|---------------|
| 一般工法 | 屋内で水を使用しない場所 | 吸水性下地 (モルタル下地など) | タキボンド #607 | 床溶接棒 | タキシーラー#600 | タキボンド #650 | タキボンド #625 |
| 耐水工法 | 屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所(接地階など) または非吸水性下地(塗り床など) | 吸水性下地・ 非吸水性下地 | タキボンド #607 | 床溶接棒 | タキシーラー#600 | タキボンド #650 | タキボンド #625 |

- 下地の種類によっては、プライマー タキボンド#625(別売品)が必要な場合があります。(#650を段鼻に接着させるため)
- 端部処理は前垂れの浮きや段鼻の破損を抑制する効果がありますので段鼻下部は必ず実施してください。
- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ナイスレイシートとの二重張りはありません。

屋内施設用

タキストロンGK

タキストロンGK + ナイスレイシート

| 工法 | 用途 | 下地 | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 |
|------|--|---------------------|-----------------------|-------|----------------|
| 一般工法 | 屋内で水を使用しない場所 | 吸水性下地 (モルタル下地など) | タキボンド #607・701 | 床溶接棒 | 不要 |
| 耐水工法 | 屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所(接地階・洗面所など) または非吸水性下地(塗り床・重ね張りなど) | 吸水性下地・ 非吸水性下地 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 | タキシーラー #600 |

- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。

屋内施設用

ネオクリーン

ネオクリーン + ナイスレイシート

| 工法 | 用途 | 下地 | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 |
|--------|--|------------------|-----------------------|----------------|-----------------------------------|
| 耐水工法 | 屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所 (接地階・洗面所など) または非吸水性下地 (塗り床・重ね張りなど) | 吸水性下地 非吸水性下地 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 エポシーラー | エポシーラー タキシーラー#600 クリアー(CLR) |
| 特殊耐水工法 | 屋内で大量に水を使用する場所 | 吸水性下地・ 非吸水性下地 | タキボンド#601 | 床溶接棒 エポシーラー | エポシーラー |

- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。

屋内施設用

ネオセーフ抗菌

ネオセーフ抗菌 + ナイスレイシート

| 工法 | 用途 | 下地 | 接着剤 | 継目処理材 | 端部処理材 | グレーチング廻り |
|--------|--|------------------|-----------------------|----------------|-----------------------------------|----------------------|
| 耐水工法 | 屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所 (接地階・洗面所など) または非吸水性下地 (塗り床・重ね張りなど) | 吸水性下地 非吸水性下地 | タキボンド #607・701・601 | 床溶接棒 エポシーラー | エポシーラー タキシーラー#600 クリアー(CLR) | エポシーラー L字アングル抗菌※1 |
| 特殊耐水工法 | 屋内で大量に水を使用する場所 | 吸水性下地・ 非吸水性下地 | タキボンド#601 | 床溶接棒 エポシーラー | エポシーラー | エポシーラー L字アングル抗菌※1 |

- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ※1 ナイスレイシートとの二重張りの場合、L字アングル抗菌は使用できません。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス・
注意
P.333

下地別選定表 (屋外)

| 工法・下地の種類 | | 屋外 | | | | | |
|---|------------|--|---|--|--|--------------------------------------|-----------|
| | | タキストロン | | タキステップ RAステップ | | | |
| | | 接着剤 | 端部処理材 | 接着剤 | 端部処理材 | | |
| 耐水工法 ●湿気の出る下地 ●直接雨がかりのない場所 | 非吸水性下地 | 吸水性下地 (モルタル下地など) | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール タキシール#600 | タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 | |
| | | 塗膜防水材 | アクリルウレタン系 トップコート | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール タキシール#600 | タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 |
| | | | フッ素系 トップコート | タキボンド#607 タキボンド#701 | タキシール#600 | タキボンド#607 タキボンド#701* | タキシール#600 |
| | | エポキシ系 ポリエステル系塗り床等 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール タキシール#600 | タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 | |
| | | 鉄板、アルミ、ステンレス 磁器タイル等 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 タキストロンテープ#355*1 | エポシール タキシール#600*1 | タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 | |
| | ナイスレイシート | 下地に合わせて選定 | 下地に合わせて選定 | 下地に合わせて選定 | 下地に合わせて選定 | | |
| 特殊耐水工法 ●屋根のない 完全屋外など (プールサイドは除く) | 非吸水性下地 | 吸水性下地 (モルタル下地など) | タキボンド#601 | エポシール タキシール#600*2 | — | — | |
| | | エポキシ系塗り床 全面塗膜防水材 アルミ 塩ビ系防水シート等 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール*3 タキシール#600 | — | — | |
| | ナイスレイシート | 下地に合わせて選定 | 下地に合わせて選定 | — | — | | |
| プールサイド工法 ●プールサイド | 吸水性・非吸水性下地 | タキボンド#601 | エポシール | タキボンド#601 | エポシール(踏み面周囲) タキシール#600(段鼻部) | | |
| | ナイスレイシート | タキボンド#601 | エポシール | — | — | | |
| 副資材に対する注意事項 | | <ul style="list-style-type: none"> ●非吸水性下地では接着剤塗布量を少なくする、もしくはオープンタイムを長く取ってください。 ●タキボンド#601は湿度が高いと塗布した接着剤表面が結露することがありますので注意してください。 ※1 鋼調板下地にはタキボンド#625で下地処理を行い、タキストロンテープ#355を用いて貼り付けてください。 | <ul style="list-style-type: none"> ●仕上げ後は踏まないように2~3日養生してください。 ●躯体に施してあるシーリング材の上に塗布しないでください。 ※1 タキストロンテープ#355を使用する場合には、タキシール#600をご使用ください。 ※2 完全屋外の吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずプライマー タキボンド#625:(別売品)で前処理を行ってください。 ※3 下地の種類によって本来の接着強度が発揮できない場合がありますので営業担当者に確認してください。 | <ul style="list-style-type: none"> ●非吸水性下地では接着剤塗布量を少なくする、もしくはオープンタイムを長く取ってください。 ●鋼調板下地にはタキボンド#625で下地処理を行いタキステップ3Sをご使用ください。 ●セメント押出成形板下地にレッツステップを施工する場合は、レッツステップ専用プライマーで下地処理を行ってください。 ※タキボンド#701は踏み面タイプのみご使用いただけます。 | <ul style="list-style-type: none"> ●仕上げ後は踏まないように2~3日養生してください。 ●鉄骨階段においては、立ち上がり面との隙間を設けてください。 ●エポシールとその他端部処理材と打ち継ぐ場合には、先にエポシールを仕上げてください。 ●躯体に施してあるシーリング材の上に塗布しないでください。 ●アルミ下地にはプライマーを使用しないでください。 | | |

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

注意事項
(ナイスレシートの使用可否については、**P.295** でご確認ください。)

- ひび割れなどがなく堅牢であることを確認してください。
- 表面が平滑であることを確認してください。 ●十分に乾燥していることを確認してください。
- 多孔質な下地に端部処理材を施工すると、下地中の空気を噛み込むことがありますので、事前に確認してください。

- 防水材が下地に十分接着しているか確認してください。
- 種類によって接着性の低い場合がありますので接着テストを行ってください。
- 骨材等でノンスリップ加工が施された下地は同種の防水材等で補修してください。

- 防水材が下地に十分接着しているか確認してください。
- 種類によって接着性の低い場合がありますので接着テストを行ってください。
- 骨材等でノンスリップ加工が施された下地は同種の防水材等で補修してください。

- 塗り床材が下地に十分接着しているか確認してください。
- ワックスが塗布されている場合は、剥離剤やサンドペーパー等で必ず除去してください。

- 既設の床材が下地に十分接着しているか確認してください。
- ステンレス下地ではサンディング処理を施してください。
- 磁器タイルは樹脂モルタルで目地詰めし、更の上塗りを行ってください。
- 金属下地の場合は十分な防錆処理(クレン・錆止め・上塗り)を行ってください。
- 塗料の種類によっては、接着剤で膨潤する場合がありますので事前にご確認ください。
- アルミは処理方法によって異なりますので、営業担当者に確認してください。

- 上記に該当する下地の注意事項を遵守してください。

- ひび割れなどがなく堅牢であることを確認してください。
- 表面が平滑であることを確認してください。
- 十分に乾燥していることを確認してください。

- 既設の床材が下地に十分接着しているか確認してください。
- 磁器タイルは除去してください。
- 骨材等でノンスリップ加工が施された下地は同種の防水材等で補修してください。
- 機械固定工法で敷設された塩ビ系防水シートには施工できません。
- 非吸水下地の種類によって本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者に確認してください。
- 防水シートの種類によっては、タキストロンが変色する場合があります。

- 上記に該当する下地の注意事項を遵守してください。

- ひび割れなどがなく堅牢であることを確認してください。
- 表面が平滑であることを確認してください。
- 十分に乾燥していることを確認してください。

- 上記に該当する下地の注意事項を遵守してください。

階段下地の注意事項

- 階段段鼻分に埋め込まれている磁器タイルは撤去を基本とし、発生する段差はカチオン系樹脂モルタルを用いて補修してください。
- ノンスリップタイヤ付き金物は必ず撤去し、発生する段差はカチオン系樹脂モルタルを用いて補修してください。
- 埋め込み式ノンスリップ金物は撤去を基本とし、発生する段差はカチオン系樹脂モルタルを用いて補修してください。
- 階段全面磁器タイルは撤去を基本とし、発生する段差はカチオン系樹脂モルタルを用いて補修してください。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス・
注意
P.333

下地別選定表 (屋内)

| 工法・下地の種類 | | 屋内 | | | | |
|---|--------------------|---|--|---|---|-----------------------------|
| | | タキストロン | | ネオセーフ抗菌 ネオクリーン | | |
| | | 接着剤 | 端部処理材 | 接着剤 | 端部処理材 | |
| 一般工法 ●湿気の出ない下地 (2階以上の床) ●施工後、水気が かからない場所 (店舗・事務所等) | モルタル (吸水性のある下地) | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | — | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | — | |
| | ナイスレイシート | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | — | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | — | |
| 耐水工法 ●接地層・洗面台などの 湿気の恐れのある下地 ●非吸水性の下地 (重ね張りなど) | モルタル (吸水性のある下地) | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール タキシール#600 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール タキシール#600CLR | |
| | 特殊下地 (吸水性のない下地) | ビニル系床タイル ビニル系床シート コンパネ等 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール タキシール#600 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール タキシール#600CLR |
| | | 鉄板、アルミ、 ステンレス、 磁器タイル等 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 タキストロンテープ #355*1 | エポシール タキシール #600*1,2 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール タキシール #600CLR*1 |
| | | エポキシ系 ポリエステル系塗床等 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | エポシール タキシール#600 | タキボンド#607 タキボンド#701 タキボンド#601 | — |
| | ナイスレイシート | 下地に合わせて選定 | エポシール タキシール#600 | 下地に合わせて選定 | エポシール タキシール#600CLR | |
| 特殊耐水 工 法 ●大量に水を 使用する場所 | モルタル (吸水性のある下地) | — | — | タキボンド#601 | エポシール | |
| | 特殊下地 (吸水性のない下地) | エポキシ系塗床 アルミ・人造石等 | — | — | タキボンド#601 | エポシール |
| | | ナイスレイシート | — | — | タキボンド#601 | エポシール |
| プールサイド 工 法 ●プールサイド | 吸水性・非吸水性下地 | タキボンド#601 | エポシール | — | — | |
| | ナイスレイシート | タキボンド#601 | エポシール | — | — | |
| 床暖房工法 | コンクリート内埋設タイプ | タキボンド#601 | エポシール | タキボンド#601 | エポシール | |
| | パネルヒータータイプ | タキボンド#601 | エポシール | タキボンド#601 | エポシール | |
| 副資材に対する注意事項 | | <p>●非吸水性下地では接着剤塗布量を少なくする、もしくはオープンタイムを長く取ってください。</p> <p>※1 鋼板下地にはタキボンド#625で下地処理を行い、タキストロンテープ#355を用いて貼り付けてください。</p> | <p>●仕上げ後は踏まないように2~3日養生してください。</p> <p>●躯体に施してあるシーリング材の上に塗布しないでください。</p> <p>※1 塗料の種類によって本来の接着強度が発揮できない場合がありますので営業担当者に確認してください。</p> <p>※2 タキストロンテープ#355を使用する場合には、タキシール#600をご使用ください。</p> | <p>●一般工法は、タキボンド#620または床溶接棒、エポシールで継目処理を行ってください。</p> <p>●非吸水性下地では、接着剤塗布量を少なくする、もしくはオープンタイムを長く取ってください。</p> | <p>●仕上げ後は踏まないように2~3日養生してください。</p> <p>●躯体に施してあるシーリング材の上に塗布しないでください。</p> <p>●アルミ下地にはプライマーを使用しないでください。</p> <p>※1 塗料の種類によって本来の接着強度が発揮できない場合がありますので営業担当者に確認してください。</p> | |

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

| 屋内 | | 注意事項 (ナイスレシートの使用可否については、P.295 でご確認ください。) |
|---|--|---|
| タキステップ RAステップ | | |
| 接着剤 | 端部処理材 | |
| タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 | <ul style="list-style-type: none"> ●ひび割れなどがなく堅牢であることを確認してください。 ●表面が平滑であることを確認してください。 ●接地層の床は施工後に湿気がでることが多いので湿気が出ないことを確認してください。 ●デッキプレート、防水の押さえコンクリートは乾燥期間が長く必要です。十分乾燥をチェックしてください。 ●多孔質な下地に端部処理材を施工すると、下地中の空気を噛み込むことがありますので、事前に確認してください。 |
| タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 | <ul style="list-style-type: none"> ●上記の注意事項を遵守してください。 |
| タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 | <ul style="list-style-type: none"> ●ひび割れなどがなく堅牢であることを確認してください。 ●表面が平滑であることを確認してください。 ●十分に乾燥していることを確認してください。 |
| タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 | <ul style="list-style-type: none"> ●湿気の出る下地では既設の床材が浮き上がることがありますので既設の床材を剥がしてください。 ●既設の床材が下地に十分接着しているか確認してください。 |
| タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 | <ul style="list-style-type: none"> ●既設の床材が下地に十分接着しているか確認してください。 ●ステンレス下地ではサンディング処理を施してください。 ●磁器タイルは樹脂モルタルで目地詰めし、更にも塗りをしてください。 ●金属下地の場合は十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を行ってください。 ●塗料の種類によっては、接着剤で膨潤する場合がありますので事前にご確認ください。 ●アルミは処理方法によって異なりますので、営業担当者に確認してください。 |
| タキボンド#607 タキボンド#701* タキボンド#601 | タキシール#600 | <ul style="list-style-type: none"> ●塗り床材が下地に十分接着しているか確認してください。 ●ワックスが塗布されている場合は、剥離剤やサンドペーパー等で必ず除去してください。 |
| 下地に 合わせて選定 | タキシール#600 | <ul style="list-style-type: none"> ●上記に該当する下地の注意事項を遵守してください。 |
| — | — | <ul style="list-style-type: none"> ●ひび割れなどがなく堅牢であることを確認してください。 ●表面が平滑であることを確認してください。 ●十分に乾燥していることを確認してください。 |
| — | — | <ul style="list-style-type: none"> ●既設の床材が下地に十分接着しているか確認してください。 ●磁器タイルは除去してください。 ●金属下地の場合は十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を行ってください。 ●塗料の種類によっては、接着剤で膨潤する場合がありますので事前にご確認ください。 ●塗り床材が下地に十分接着しているか確認してください。 ●ワックスが塗布されている場合は、剥離剤やサンドペーパー等で必ず除去してください。 |
| — | — | <ul style="list-style-type: none"> ●上記に該当する下地の注意事項を遵守してください。 |
| タキボンド#601 | エポシール(踏み面周囲) タキシール#600(段鼻部) | <ul style="list-style-type: none"> ●ひび割れなどがなく堅牢であることを確認してください。 ●表面が平滑であることを確認してください。 ●十分に乾燥していることを確認してください。 |
| — | — | <ul style="list-style-type: none"> ●上記に該当する下地の注意事項を遵守してください。 |
| — | — | <ul style="list-style-type: none"> ●継目は溶接工法を行ってください。 ●施工7日以上前にヒーターを入れてコンクリートの湿気を追い出し、使用温度下で施工してください。 ●施工後のエア抜きは念入りに行ってください。 |
| — | — | <ul style="list-style-type: none"> ●継目は溶接工法を行ってください。 ●施工7日以上前にヒーターを入れてコンクリートの湿気を追い出し、使用温度下で施工してください。 ●施工後のエア抜きは念入りに行ってください。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●非吸水性下地では接着剤塗布量を少なくする、もしくはオープンタイムを長く取ってください。 ●構鋼板下地にはタキステップ3Sをご使用ください。 *タキボンド#701は踏み面タイプのみご使用いただけます。 | <ul style="list-style-type: none"> ●仕上げ後は踏まないように2～3日養生してください。 ●躯体に施してあるシーリング材の上に塗布しないでください。 ●アルミ下地にはプライマーを使用しないでください。 | 階段下地の注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ●階段段鼻分に埋め込まれている磁器タイルは撤去を基本とし、発生する段差はカチオン系樹脂モルタルを用いて補修してください。 ●ノンスリップタイヤ付き金物は必ず撤去し、発生する段差はカチオン系樹脂モルタルを用いて補修してください。 ●埋め込み式ノンスリップ金物は撤去を基本とし、発生する段差はカチオン系樹脂モルタルを用いて補修してください。 ●階段全面磁器タイルは撤去を基本とし、発生する段差はカチオン系樹脂モルタルを用いて補修してください。 |

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス・
注意
P.333

3.接着剤

接着剤の選定は、下地の種類、下地の乾燥度、使用される用途などによっても異なります。タキストロン・タキステップ等は樹脂層が厚い為に**初期接着強度が必要**です。また、**屋外など過酷な条件下**で使用される場合には、接着剤にこれらの用途で耐える**耐久性**が要求されます。専用接着剤タキボンド以外の接着剤では、裏打材との接着力が弱く、用途に適さないタイプがありますので必ず指定の専用接着剤を使用してください。

接着剤の特長

接着剤に含まれている**溶剤・水の飛散(乾燥)によって硬化する一成分形**と、**反応して硬化する二成分形**があります。アクリル樹脂系エマルジョン形などの接着剤は耐水性が劣り、**エポキシ樹脂系・ウレタン樹脂系接着剤は耐水性に優れています**。

下地水分率が高すぎると接着剤と下地との接着不良が起こります。また、**下地からのアルカリ水**によって**接着剤の分解・再乳化**が起こり、期待する強度が得られず**継目の縮み、剥がれ、フクレ**の原因となります。

接着剤に期待する強度を発揮させるには**下地の乾燥**と用途に適した接着剤の選定が必要です。



ウレタン樹脂系一成分形 (タキボンド#607・タキボンド#701)

空気中、下地中に含まれている水分と反応して硬化する耐水性接着剤です。二成分形のように、主剤、硬化剤を混合しなくてもご使用頂けます。また梅雨期などに発生しやすい接着剤塗布面の結露に対しても優れた性能を持っています。

有機溶剤を含んでいるため引火性、有害性があり、取扱いに注意が必要です。塗床などの非吸水下地へ施工を行う場合は、溶剤の飛散が制限され、床材が膨れる可能性があるため、塗布量を少なくするか、オープンタイムを長くする必要があります。

施工開始から養生終了までの間に5℃以下(気温・下地)になる場合や、急激な温度変化や水濡れがある場合は施工できません。



エポキシ樹脂系二成分形 (タキボンド#601)

主剤と硬化剤を所定の割合で混合、攪拌して使用します。所定の混合割合でなかったり、攪拌が不十分であった場合、十分な接着力を発揮しません。ほとんどの床下地に対し優れた接着力があり耐水性、耐熱性などにも優れています。

有機溶剤を含んでいるため引火性があり、またカブレが起きやすく有害性があります。取扱いには特に注意が必要です。

施工開始から養生終了までの間に5℃以下(気温・下地)になる場合や、急激な温度変化や水濡れがある場合は施工できません。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

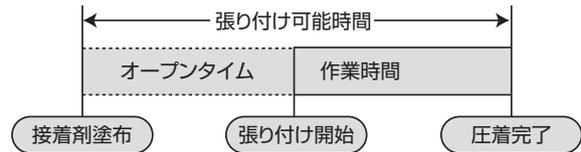
接着剤のオープンタイムと張り付け可能時間

接着剤塗布後の時間の経過とともに溶剤の飛散量は増加し、接着剤の反応も進行します。しかし、張り付けまでの時間が長いほど、接着力は低下します。従いまして、床材が溶剤でフクしない溶剤量になった時点がオープンタイムであり、床材の納まりに必要な最低の接着力になった時点が張り付け可能時間です。下記表のように張り付け可能時間からオープンタイムを引いた作業時間に床材を張り付けます。但し、これらのオープンタイム、張り付け可能時間は、床材の種類、下地の材質、接着剤の塗布量、気温、湿度、風通しなどによって左右されます。

⚠ 下記はあくまで一例ですので、詳細は各施工手順にてご確認くださいませようお願いいたします。

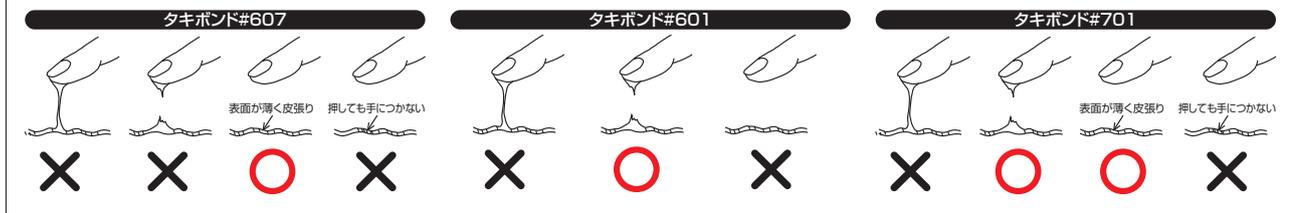
オープンタイムの目安(20℃)

| 接着剤 | オープンタイム | 張り付け可能時間 |
|-----------|---------|----------|
| タキボンド#607 | 20~30分 | 40~50分 |
| タキボンド#601 | 30~40分 | 60~70分 |
| タキボンド#701 | 30~40分 | 50~70分 |



※5℃以下(気温・下地)では使用しないでください。(硬化反応が進みません)

指触によるオープンタイムの目安



⚠ 注意 接着剤取扱い上の注意

接着剤に含まれている有機溶剤は危険物であり、引火性があります。また人体への健康障害防止上、次のことに注意して取扱ってください。

(I) 作業上の注意

- 接着剤、端部処理材の種類、作業環境によっては有機溶剤中毒予防規則に従った対応が必要な場合があります。
- 火気のある所では使用しないでください。
- 安全データシート(SDS)や取扱い説明書などを作業前によく読んで使用してください。
SDSはタキロンシーアイホームページ(<https://www.takiron-ci.co.jp>)よりダウンロードできます。
製品情報→資料ダウンロード→安全データシート(SDS)→床材

(II) 保管上の注意

1 保管数量

接着剤・端部処理剤等には、消防法や各市町村条例に従った保管が必要な物もあります。下の消防分類に該当する物で、記載数量以上を保管する場合には、消防に届出が必要となり、この数量の1/5を超えて保管する場合は、各市町村条例の適用を受ける事がございます。また同じ場所に数種類を保管する場合は、下の数量と異なりますので、所轄消防署へご確認お願い致します。

消防法-指定数量

| | |
|----------------------|------------------|
| 危険物 第4類第1石油類非水溶性液体 | 200ℓ |
| 危険物 第2類引火性固体 | 1,000kg |
| 指定可燃物(可燃性液体類) | 2m ³ |
| 指定可燃物(可燃性固体類) | 3,000kg |
| 指定可燃物(合成樹脂類 その他のもの) | 3,000kg |
| 指定可燃物(合成樹脂類 発泡させたもの) | 20m ³ |

2 保管場所

- 一定の場所を定め、子供の手の届かない所に保管してください。
- 直射日光・雨水を避け、換気の良い5~35℃で保管してください。
- 高温多湿を避けてください。

3 使用残の接着剤

- 密べいして保管してください。

4 廃棄

- 内容物を使い切ってから容器を破棄してください。
- 産業廃棄物の許可を得た専門業者に委託してください。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス・
注意
P.333